

平成28年度第3回花巻市立図書館協議会 会議録

- 日 時 平成29年2月28日（火）午前10時00分～午前12時00分
- 場 所 花巻市立花巻図書館 会議室
- 出席者 (1)委員
小山田厚委員、加藤暢之委員、市川 浜委員、門馬優子委員、日下明久美委員、坂本知彌委員、佐藤三恵子委員、高橋久美子委員、伊藤 明德委員（計9名）
- (2)課長及び図書館長
市川清志生涯学習課長
中村光一花巻図書館長、吉田郁子大迫図書館長、多田広美石鳥谷図書館長、盛田明広東和図書館長
- (3)事務局
城守敏浩花巻図書館副館長兼管理係長、伊藤佐代花巻図書館業務係長、菊池桂石鳥谷図書館主査
- 欠席者 2名（高橋則子委員、佐々木さつき委員）
- 傍聴人 なし

●次第及び協議内容等

・会議成立の報告（城守花巻図書館副館長兼管理係長）

- ・委員11名中9名出席。出席委員が構成員の過半数を超えているので、図書館協議会第7条により本会議が成立することを報告。

1 開 会（城守花巻図書館副館長）

2 あいさつ

（坂本会長）

皆さん、おはようございます。月末のお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。図書館のために一步でも前進するように、皆様方のご意見を頂戴できればと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

3 議 題（協議会規則により会長が議長となる。）

（1）平成28年度花巻市立図書館事業実施状況について

- ・平成28年度花巻市立図書館事業実施状況について、花巻図書館から順番に説明。
花巻：伊藤係長、大迫：吉田館長、石鳥谷：多田館長、東和：盛田館長

（坂本会長）

ただ今、4つの図書館からそれぞれ報告がありました。このことについて、ご質問がありましたら、お願いします。

（高橋久美子委員）

1ページのブックスタートは、毎年同じ本を選んでいるのか、それとも毎年違う本を選んでいるのかということと、フォローアップにも参加しなかった方々に、こちらから届けるようなことをしているのか、お聞きします。

（伊藤係長）

ブックスタートとブックスタートプラスの配付用絵本は、2年に1回選定し決定させていた

だいておりますが、継続しているものと変更しているものがありますが、基本的には見直しをしております。フォローアップに参加できなかった方には、個別に配付するのは難しいので、ご都合のつく時に図書館にいらしていただければ、お渡ししますとお知らせしています。

(高橋久美子委員)

第一子の場合は、離乳食教室に必ず行くので本ももらえると思いますが、第二子・第三子となると行かない人がいるかと、またお兄ちゃんお姉ちゃんがもらった本と同じなら行かなくてもいいかなあと思う人がいるのかと思ひまして、毎年本を変えると参加率も高くなるか考えたものですから。

(伊藤係長)

配付用の本の他に交換用の本も準備しておりまして、ブックスタート用とブックスタートプラス用で10冊か準備しております。もし前にももらった本の場合は、そちらの本をお渡しするのも可能です。

(坂本会長)

色々配慮がされているということで、よろしゅうございますか。他にございませんか。それでは次に進みたいと思います。

(2) 平成29年度花巻市立図書館運営方針(案)について

・平成29年度花巻市立図書館運営方針(案)について

中村花巻図書館長から、Ⅰ基本方針、Ⅱ重点目標、Ⅲ各館重点事項(1)花巻図書館重点事項を説明。以下、各図書館長から各図書館重点事項を説明。

(坂本会長)

はい、ありがとうございます。これまでのところで、ご質問ありませんか。

(高橋久美子委員)

2ページの④のところですが、高齢者に配慮した移動図書館の運営に努めるとありますが、高齢者はだんだん目が見えなくなってくるので、高齢者用の文字の大きい本など積極的に取り入れていますか。

(伊藤係長)

要望をいただいた場合は対応しておりますし、移動図書館車には、大活字本や絵本、紙芝居、写真集なども搭載しております。高齢者の施設からもそのようなものを要望されております。

(坂本会長)

利用者のニーズに即してというところだと思います。他にございませんでしょうか。

(中村館長)

言い忘れたことがあります。第2回の図書館協議会の時に、学校図書館への支援をお願いしたいということで、うちの方から学校支援員、非常勤の方2名を予算要求しておりました。その後、財政課から学校図書館については教育委員会の小中学校課でやるべきだということで小中学校課に1名、内示になっております。本来であれば、うちの重点目標に入れたかった部分でしたが、今年度と同じような重点目標になったことを言い忘れておりましたので、よろしくお願いいたします。

(坂本会長)

ありがとうございます。佐藤委員さん、良かったですね。実現します。他にはございませんでしょうか。

視聴覚資料の充実はさっき伺ったのですが、本に関しては、いかがでしょうか。デザインの本など、中身がちょっと古いと思われる本が結構あるように思います。何か探そうと思って、

図書館に行ったら、みんな古かったということがあれば、図書館から足が遠のくと思います。時代が反映されなければならないような図書については、充実させていただきたいと思います。予算の使い方としてお願いしたいと思います。

(市川委員)

今のことに関連して、それぞれの図書館に適した本の数をどんなものを基準に考えていますか。図書館の蔵書数の目標は、どのように考えていますか。

(坂本会長)

人口割でどれくらいか。

(市川委員)

そういう機械的に人口割でやるものなのか。そのへんはどのようにお考えでしょうか。特にそのようなことは考えなくても良いことでしょうか。

(中村館長)

予算は獲得したいのですが、結局は例年通りにしか予算がつきません。例年の基準となってしまいます。最初にどのように決めたかは、ちょっと私にもわかりません。

(伊藤委員)

図書館に来て色々調べる時の資料という観点から選んでいく、人口割で何冊というよりは、図書館の役割というところから考えた本の選び方が重要だと感じます。

(市川委員)

ということは、毎年予算の要望を出すにあたって、やはり何かきちんとしたものを基に、これくらい必要だというものが必要だと思います。

(坂本会長)

裏付けですね。

(伊藤委員)

やはり今、館長さんが言われた通り予算などは大変ですね。

(坂本会長)

廃棄図書を選ぶ時に、比較的装丁があまり汚れていなければ、残ったりしますね。もう少し一歩踏み込んで中身も考えて引き算していくと、花巻市の図書館の冊数は、こんなにいっぱいではないような気がします。時代が過ぎてあるだけだよというような本は、別の所に移動していただいて、そして冊数には数えない方法もあると思います。それはどうなのでしょうね。やはりまずいですか。

(高橋久美子委員)

廃棄基準はあるのですか。例えば、何年とか。法律で決まっていて、各図書館で融通をきかせることはできないのですか。

(城守副館長)

除籍の基準はあります。

(高橋久美子委員)

それに則ってやっているということですね。大体何年ですか。

(坂本会長)

年数ではないと思いますが、学校の図書館も冊数は多いけど、実際には手に触れられない本もいっぱいありますね。引越しのことを考えれば、今のうちに身軽にして、必要なものは残す、そうでないものはというのは。

(城守副館長)

花巻市立図書館資料除籍基準要綱がありまして、例えば、汚損又は破損資料で修理、製本等ができないもの。時代の経過により、内容が古くなり、資料価値がなくなった図書などです。

先ほど坂本会長さんがお話しされた内容そのままとなります。

(佐藤委員)

除籍、廃棄のお話ですが、見識が問われると思います。そういう判断ができるかどうかということが大事なところだと思います。今の人たちが利用しないから、シミがあるからいらぬということで除籍していいのか。廃棄していいのか。次の世代の子どもたちがもしかしたら読むかもしれないということも考えなければならないと思います。

(高橋久美子委員)

ですから、図書館でも、廃棄基準の年数になったからすぐみんな廃棄しているわけではないですね。そこを考えると、価値のあるものは基準が過ぎても残しているわけですね。

(佐藤委員)

その価値というのは、誰が決めるかですね。

(高橋久美子委員)

それは図書館の方が決めているのですよね。

(坂本会長)

研修を積んでいただきましょう。

(中村館長)

全部残すというのは施設の的に難しいので、ある程度廃棄できるものは廃棄していかなければならないという部分もございます。

(佐藤委員)

最近はお金を出せば、本を自費出版できる世の中ですから、図書館に本を寄贈する人がいます。そういう本と文学作品と比較できないものなののでしょうか。誰にも本の価値の差はあると思います。図書館司書という役割があつて資格があつて、その見識に委ねるしかないですね。よろしくをお願いします。

(坂本会長)

研修費もちゃんと獲得してもらいましょう。よろしくお願ひいたします。

本当に本の流通が変わって、すぐ絶版になります。絵本の原画展に行つて欲しい本があつたのですが、もう絶版になつていてありませんでした。そうしたら若い事務職員に「今、ネットがあります。」と言われました。500円から600円の本が2,000円か3,000円するのです。コンビニで受け取れます。古本屋に行かなくてもネットで探せるということを勉強しました。

(高橋久美子委員)

スキルアップ講座があるようですが、それは読書の普及活動をしている個人や団体ということですが、これからしたいとか興味がある人たちはどうなのでしょう。

(中村花巻図書館長)

市民の方で興味のある方であれば、参加できます。

(坂本会長)

職員を対象にしているのであれば、日曜日がいいと思います。普段の日は、ほとんど参加できないと思います。

(門馬委員)

地域内の学校を始めとする施設との連携が大変大事なことだと思います。少し前ですと、図書委員が中心となつて図書まつりという行事が各小学校で行われていました。図書委員が大活躍して色々企画をして多分低学年、高学年に分かれていたと思います。朝の読み聞かせ活動などで地域の人が学校に行くことがあります。やはり子どもたち自身が図書に対して自主的に企画をすつとか図書館をもう少しすみずみまで見ようということなど、子どもたちを自主的に

動かす取り組みに対して、図書館が応援してあげるという工夫が必要ではないかと思います。
(坂本会長)

そうですね。忙しい学校現場の先生方、お願いいたします。

(小山田委員)

図書まつりとは言いませんが、うちの小学校でもやっておりました。先生方が読み聞かせをいろんな場所で行い、聞きたい子どもがそこに来て読み聞かせをしていました。図書ボランティアの方がうちに入っておりますので、図書室の整備、朝や昼の読み聞かせの年間計画を立ててやっています。うちの学校の子どもたちは、そのぶん図書には慣れ親しんでいると思っております。ただ今後のこととお話すると、3年生以上に英語の授業が入ってきます。図書に親しむ時間はできる限り確保していきたいと思っておりますが、何分いろんなものが入ってきている中で、四苦八苦しなかならなければならないと思っております。

(坂本会長)

ご苦労様ですが、よろしくお願いいたします。中学校はいかがでしょうか。

(加藤委員)

ある調査をみると、うちの中学校の子どもたちは、県内の中学生よりは本を読む冊数は多いようです。そこには小学校と同じように、朝読書や図書館ボランティアによる読み聞かせがあります。今、新しい校舎ができて、図書館の整備も図書館ボランティアさんに一生懸命にやってもらっておりますが、鍵をかけずにいつでも使いなさいと自由に出入りできる環境でやっております。そういうところが調査に結びついていると思います。そういう環境ができるのも地域のボランティアの方々の力がすごく大きいと思っております。いきなり質問になって申し訳ありませんが、石鳥谷で読書推進を進めていくということですが、学校図書館ボランティアの方々は、具体的にどのようなことが支援できて、どんなことが支援としては難しいのか、何か具体的なイメージがあったら、一つ紹介していただければ、私も図書館ボランティアさんをお願いしてみようかと思っております。

(坂本会長)

支援員が実際につくということで、その支援員さんとボランティア、学校とどのようになるのか。まず、実際になさってみた石鳥谷さんの方からお願いします。

(菊池主査)

支援員というよりも、最初は石鳥谷小学校の要請で、ボランティアさんのための本の修理の講座から始めました。図書館の中が乱れていて、ちゃんと分類ごとになっていないし、子どもたちが使うには、ちょっと使いづらいのではないかということで、2年前にお母さん方が夏休みに2日使って、図書の全部入れ替え作業をしました。古くなって絶対に読まないだろうという本を全部除籍し、ラベルもバラバラだったので、市立図書館仕様のラベルにして全部入れ替え作業をしました。その後のフォローというのが図書館として職員が少ないためなかなかできません。これから支援員さんが担ってくれるのかと思っております。

(佐藤委員)

分類に関して言うと、先生方が業者に注文して業者はラベルを貼ってコーティングをして納入してくれるのですが、その分類がずれるわけです。私たちボランティアが、またラベルを作って貼ります。随分無駄だと思います。そのラベルの分類を花巻市立図書館仕様にしていただきたいです。業者の人は司書ではなく、その業者が下請けに出して、そこに司書がいるそうです。

(坂本会長)

それについては、十進分類法があります。

(佐藤委員)

ですが個人の見解が入るみたいで、そこは何とかならないのでしょうか。ラベルがもったいないです。

(伊藤委員)

司書は勉強してきている人ですよ。ですから普通に考えれば、全部同じではないですか。

(佐藤委員)

微妙に違ってきます。

(伊藤委員)

学校には、司書教諭がいます。

(佐藤委員)

学校の司書教諭はほとんど。

(坂本会長)

学校の先生は、忙しい。司書教諭の免許があっても、図書館だけに関わってられない実態だと思います。

(佐藤委員)

私たちボランティアが活動している時に、先生が授業中とか、司書資格がある先生に会って作業することはほとんど皆無です。

(坂本会長)

そうだと思います。学校で図書館のことをするのは、予算的なことをするのが実情じゃないかと思います。あと、実際は図書委員会がある時に生徒さんと一緒に何かする。クラスを持って他のこともあって、体がいくつあっても足りません。だからその部分を支援員さんがカバーしてもらえるように、図書館の方も予算は教育委員会だからというのではなく、応援していただきたいと思います。図書館との互換性というのも考えてやっていただければと思います。よろしく願いいたします。

(佐藤委員)

学校が本を業者に注文する時に、この本はこのラベルでお願いしますというようにできれば花巻市立図書館仕様になると思いますが、そういうことを業者はしてくれるのですか。

(坂本会長)

ラベルはコーティングした上に貼りますよね。中に入れると大変です。

(佐藤委員)

そうです。

(坂本会長)

フィルムを貼るのは、結構技術がいりますね。

(佐藤委員)

さらに上に貼ります。そこがもったいないです。高いですよ。

(坂本会長)

それについては、学校と業者さんとまず交渉していただいて。

(高橋久美子委員)

今の件ですが、水沢や胆江地区の学校には、特別な予算で学校司書が入っていると聞きますが、せっかく学校司書がいるのに活用できないというのはもったいないので、学校や教育委員会で司書の資格のある先生の授業を軽減するとか配慮してもらいたいという感想です。

(坂本会長)

読書力が付けば、結果的に学力が上がりますが、いかに学力を上げるかが教育委員会の課題だと思いますので、何かの機会にそういう発言をみんなですていきたいと思います。運営方針

について、他のご意見ありませんか。

(日下委員)

今、学校図書館のことが色々出ましたが、教育委員会でこういうボランティアの方々から意見を聞く場があってもいいと思います。本来、ここは、学校図書館のことを話し合う場ではないと思います。学校図書館ボランティアの方々と教育委員会サイドが話し合う機会を設けてもらえるよう働きかけをしても良いと思います。

(佐藤委員)

私の印象では、全く関心がないと思っていました。校長先生も副校長も。図書館ボランティアが何をしているか、どんなことをしているのかあまり関心を持っていないように感じます。具体的に訴えてもピンとこない感じ。結局、図書館の側からの働きかけがあって、やっと支援員が実現することが不思議です。

(坂本会長)

ゆとりがないのだと思います。図書館の方までキチッとするゆとりが学校にないというのが現状だと思います。校長先生、いかがでしょうか。

(小山田委員)

正直な話、本当に図書館ボランティアの方々がいらっしゃって、図書館が成り立っていると思っております。図書館司書の資格を持った先生はおりますが、ずっと図書館にかかりきりってこともないものですから。たまたまうちの場合は、図書館ボランティアの中に図書館司書の方がお一人いましたので、その専門性を小中学校の図書館に活かしていただいております。無償でということも大変心苦しかったので、国の補助事業の学校地域連携事業で司書だけの仕事ではなく、地域との連携という役割を含めて地域コーディネーターという役割を持っていただきながら図書館の仕事もみていただいております。

(坂本会長)

今日ここでこういう話が出たということを経済委員会の校長会など何かの機会に、お伝えいただければ非常に有り難いと思います。よろしく願いいたします。

ここで先に説明していなかった

- ・平成29年度花巻市立図書館運営方針(案)の3ページ「IV事業計画の概要」について説明概要説明(城守副館長)、4ページ「集会・行事等」各館共通・花巻(伊藤)、大迫(吉田)、石鳥谷(多田)、東和(盛田)

(坂本会長)

各館でそれぞれ一生懸命、企画を頑張っていたように思いますが、ご質問ありませんか。

(日下委員)

花巻市子ども読書クラブを今度見直して、花巻市みんなでライブラリーを実施するということですが、みんなでライブラリーにすることで参加が増える、ココが売りですよということを説明していただけないでしょうか。

(伊藤係長)

今までは、会員制で1年を通して基本的には同じ方に参加していただいていたのですが、継続してというのは今の子どもたちの状況では難しいと1年間やってみて感じました。今回は対象を狭めてそれぞれの対象に興味を持っていただけるような内容を、それぞれの図書館で行って参加を促したいというのが大きな点です。あとは、子どもたちに交通手段がなく移動できないということで、各館で行うことでそれぞれの地域の子どもたちに参加しやすくということで

検討したところです。

(坂本会長)

学校サイドに働きかけて、参加者が増えればいいですね。子どもも先生もものすごく忙しいですね。他にご意見、ご要望ありませんか。

それでは、運営方針については、このように進めるということではよろしいでしょうか。それでは、よろしく願いいたします。(3) その他に移らせていただきます。

(3) その他

①第三次花巻市子ども読書活動推進計画(案)について

・城守副館長から、計画策定の流れやパブリックコメントの経過などを説明した。また、案についてご意見があれば頂戴したいこと、またご意見は後から伺っても構わないことをお話した。

(坂本会長)

では、ここで改めてご意見を頂戴しなくても、いいわけですね。

(城守副館長)

あれば、お願いします。

(坂本知彌会長)

郵送になっておりましたので、ここは聞いてみたいとか、これは伝えたいということがありましら。朝読書なくなると、小学校、中学生の数字が違って来るかもしれませんね。

(小山田委員)

できるだけ朝読書の時間は確保できるように、他の時間を使って英語をやっていきたいと思っております。

(日下委員)

1ページの第4章子どもの読書活動を推進するための取り組みの2の(4)司書教諭等による読書活動の推進を削除するということですね。どうして削除したか伺います。

(城守副館長)

当初の事務局案ではその項目はありましたが、第1回の検討委員会の時に、委員さんから、(2)学校における読書活動の推進、(3)学校図書館における読書活動の推進、そして(4)司書教諭等による読書活動の推進とこれはみんな学校ではないか、これを3つに分ける理由があるのかとのご意見をいただきました。その中で、図書館では学校を巡回する支援員さんの事業を考えておりました。そのとおり司書教諭さんが忙しいということもありまして、司書教諭等について併せた形で、(3)学校図書館における読書活動の推進に吸収させたということでございます。

(日下委員)

具体的に書いてあった方が推進されるような気がします。(3)に入ってしまうと、では誰がやるのかということがわからないと思いますが、でもいろんな事情があったということは理解しました。

(坂本会長)

他にございませんか。

(佐藤委員)

図書館を利用しないお母さんたちは、うちの子どもは学校の本を読んでいるから、図書館に行かなくても良いと言っています。そうであるならば、学校図書館の充実しかもう要らないと思います。子どもたちが図書館に行かないのであれば、学校図書館のより一層の充実が望まれ

ることになりはしないかと思いますが、いかがでしょうか。

(坂本会長)

そら恐ろしいご発言がございましたが。

(城守副館長)

第2回の検討委員会でも委員さんからは、最終的には学校に頑張ってもらいたいという声はございました。子ども読書活動推進計画というのは、市がつくる計画で家庭や地域における読書活動の推進とか、新たに設けた行政を含んだ関係機関における読書活動の推進ということですね。その中で、学校や学校図書館における読書活動の推進という項目がありまして、課題と取り組みをあげさせていただいて、学校さんにも一緒に読書活動の推進にあたっていただきたいと考えております。子どもたちが一番過ごしているのはやはり学校です。学校の役割が大きいと思われるので、それに対して市立図書館をはじめとして協力していくという考えで計画をつくるものでございます。

(高橋久美子委員)

その件に関して、学校図書館もとても必要ですが、土曜日・日曜日の学校が休みの日に、親が学校にない本もあるよと図書館に連れてきて、いろんな分野の本に触れさせるという親の意識も大事だと思います。そういう啓蒙をするのも学校だと思いますので、PTAの活動の時などに、学校図書館だけではなく、いろんな分野の本もある図書館もぜひ利用してみてくださいと啓蒙しなければならないと思います。

(坂本会長)

そうですね。親が図書館に行くのだったら子どももついて来ますね。お買い物の前にまず図書館、そうだったらいいですね。新しくできる図書館が、例えばお買い物ができて、図書館があってということだったら、すごく利用率が上がるかもしれません。

それでは、後でも構いませんので、どうぞお気づきのことがありましたら、事務局にご連絡いただければと思います。よろしく願いいたします。それでは次の②新花巻図書館整備基本構想案について、お願いいたします。

②新花巻図書館整備基本構想（案）について

(市川生涯学習課長)

生涯学習課の市川です。新花巻図書館整備基本構想について、ご説明いたします。

前回の協議会で提案させていただいて、質問、ご意見をお受けし、今年度中に素案とさせていただきたいとお話しさせていただきました。前回の協議会では、具体的な建設時期、図書館の規模、用地が狭い場合は高層になるのか、中規模のホールの計画はあるかなど、ご質問をいただいたところです。ご意見としては、レファレンスが重要なのでそれに対応する人員の増員などご意見をいただいたと思っております。レファレンスにつきましては、資料4の12ページの④サービスに関するところで、充実に努めますと書いてあります。この他にはご意見をいただけていないところですが、今回最終的に委員の皆さんからご意見いただき修正をし、それから一般に公表して意見をいただき構想として定める予定です。その後の予定では来年度、具体的な計画を定め場所を含めて検討して、また協議会で検討させていただきたいという予定でございます。以上ですが、最終的なところでご意見等ありましたら、お願いします。

(坂本会長)

盛り込んでいただけそうなので、どうぞ、どんどんお願いいたします。

施設に関する一つよろしいでしょうか。対面読書室が欲しいかなあと。目の不自由な方に読んで差し上げるものがあれば、対面で使わない時は他の使い方もできますし、声を出して

読む場合に他の方々のご迷惑になることも考えられますので、そういうお部屋があれば良いなあと思います。新しい図書館には、大概備え付けられているようです。

(市川課長)

具体的に今回の構想には書きませんが、この後の計画の段階で検討していくことになると思います。そのようなご意見で構いません。なお、そのような具体的なご意見は、今日で最後というわけではございませんので、この構想を定めましてから基本計画を定めていく段階で、皆さま方にも相談いたしますし、当然同じように関係団体や一般市民にもパブリックコメントをして計画を定めたいと思っています。今回は、構想はまずこれでいかがでしょうか、ということでございます。

(坂本会長)

今までボヤーとしていたものが見えてきたような気がします。こうやって書かれたものをみると。

(高橋久美子委員)

ここには載っていませんが、今、東和図書館には食堂、カフェみたいなものがありますが、そういう複合施設というか、食事ができたり本屋さんがあったりすると便利なのかと思います。

(市川課長)

当然そのあたりも、最近の流れから検討したいと思っていますが、今回の構想は図書館の部分だけを考えております。レストラン、喫茶コーナー、本屋が併設される。あるいは先ほどお話があったショッピングセンター併設など可能性としてはありますが、いずれにせよそれは民間が参画してくれるかどうかということになります。それも立地場所も含めて検討していくことになっております。

(坂本会長)

他にありませんでしょうか。

(門馬委員)

こどもスペースの設置ということを書いています、プラスして乳幼児を連れてきた若いお母さんたちへの配慮、靴を脱いでカーペットの上で過ごせるような、授乳もできておむつ替えもできるスペースは必要だと思います。

(市川課長)

はい、ありがとうございます。

(坂本会長)

マルカンのキッズコーナーもすごく賑わっていました。「くらうんしゅがー」さんだったと思いますが、風船のパフォーマンスをこの前の日曜日になさっていました。ああいうふうにならいいなあと思いました。市川委員さん、いかがですか。

(市川委員)

今も課長さんから民間のお話がありましたが、今日の新聞を見たら、ものは全然違いますが、岩手医大が4月から工事に入る。ホテルなども誘致するとか、やはりそういうふうな形の中で新しい図書館を核とした新しいまちづくりとか、そういうことが大事になってきていると今日の新聞を見てわかりました。果たしてそういうスペースが取れるのかも疑問ですが、そういう形の中で、新しいまちづくりが出来てくるのかと。夢のあるそういうものを考えていく必要があるのかと考えました。

(坂本会長)

まちづくりの核として図書館ということですね。大分前の話になりますが、ヨーカドーが地域に進出するときに、地域貢献といって子どもたちの遊び場のスペースや図書コーナーを作りました。それがすごく目新しかったのですが、お客さんがいっぱい来るようになったら、どん

どん売り場になりました。図書館は市がやるわけだから、しっかりとスペースを確保して、そして地域も賑わえば良いと思います。ちゃんとした図書館があって、それが機能して周りも賑わってくれば良いと思います。これにはいつというのが具体的にはないので、いつというのがあれば良かったと、これを読み終わって思いました。

(市川課長)

前回、市川委員さんからご指摘のありました時期的なことですが、立地適正化計画という、花巻市の市街地に施設を集約していこうという計画の中で、一番の候補地になっているのは、まなび学園周辺、花巻病院の跡地を含めてということです。ただ、そこに建てるかはまだ決まっているわけではなく、これから皆さんと議論していくことになります。そうなりますと、花巻病院が平成31年の秋頃にオープンという予定ですので、時期的にはその後になるかと思えます。また、それよりも早くできる場所がないかということも含めて、今年度構想を定めまして、来年度は面積から場所まで具体的な計画を立てたい。その後に、細かい設計をして建てるということになると思えますので、平成31年から32年くらい、あるいは33年くらいになるかと思っております。

あと、この構想をご了承いただいて、細かい点でどういう部屋が欲しいとか、こういう設備が欲しいというのは、私の方に電話でもファックスでも書いたものでも構いません。お寄せいただければ、参考にさせていただきたいと思えますので、ぜひ多方面から、また団体に帰られてからのご意見もあると思えますので、いただければ、大変助かります。

(坂本会長)

素晴らしい図書館ができることを祈念しまして、それぞれお持ち帰りいただいて、宿題にはなりますが、また、思い付いたこととか、話し合いで出たことなど、どうぞ課長さんに出していただければと思います。図書館の方でも構わないと思えますのでお願いいたします。

それでは、あとはよろしゅうございますか。それでは、その他まで終わりましたので、事務局の方にお返しいたします。

4 その他

(中村花巻図書館長)

花巻図書館にありました御次留書帳が県の指定になったということで、今まで花巻図書館の耐火金庫の中に防虫剤を入れて保管していましたが、それではうまくないということで、花巻博物館に所管替えをいたしましたので、ここでご報告させていただきます。

9 閉会 (城守副館長)

以上